

科目	物理療法学実習	担当	越智 亮	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

物理療法学で学んだ知識を基に、各種物理療法機器の実際と方法を学生モデルでの実習を通じて学習し、各物理療法機器が生体に及ぼす影響の理解を深めることが授業目標である。受講者は、少人数のグループでテーマに基づいた実習を行い、各種物理的刺激によって惹起される生体反応を体験・記録・考察・検討する。実習を通じて各種物理療法の特性と生体反応の個体差を理解し、理学療法における位置づけと活用方法を知ることができる。

【履修注意】

物理療法学で学んだ禁忌事項を守り、実習を行うことが重要である。学生モデルは健常者といえども事故を招く恐れがあるため、細心の注意を払って各種物理療法機器を扱うこと。また、様々な生体反応はどのようなものでも注意深く観察すること。講義では毎回、PCと記録用ノートを持参し、実習用の服装(ジャージなど)で臨むこと。

【評価方法】

出席状況(班単位での実習のため、理由のない遅刻・欠席については厳しく減点する)、受講態度、実習への取り組み(積極性)、レポート、課題発表、実技試験によって総合的に評価する。

【試験について】

実技試験を行う。

【予習・復習】

物理療法学の講義内容を復習しておくこと。実習場面で明らかな知識不足を認めた場合、再実習の対象となる。

【教科書】

書籍名: 理学療法学テキストⅩ 物理療法 著者:(監)千住秀明,(編)沖田実 出版社:神陵文庫(購入済み)

【参考書】

書籍名: 運動療法のための機能解剖学的触診技術(体幹・下肢) 著者:(監)青木隆明,(編)林典雄 出版社:メジカルビュー社(購入済み)

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	オリエンテーション・総論	方針, 総論, 機器説明, 禁忌説明
2	生体反応測定法	血圧・脈拍・皮膚温・筋硬度・痛覚計, 各種測定法
3	伝導熱	ホットパック・パラフィン浴, 生体反応の計測
4	輻射熱・エネルギー変換熱	赤外線・極超短波, 生体反応の計測
5	光線療法	紫外線・レーザー, 生体反応の計測
6	寒冷療法	コールドパック・アイスクリッカー, RICE処置, 生体反応計測
7	水治療法	渦流浴, 冷水浴・温浴・不感温浴・交代浴, 生体反応の計測
8	超音波療法	超音波, 周波数特性, 表在温熱との比較, 生体反応計測
9	牽引療法	頸椎牽引・腰椎牽引, 柔軟性評価, 筋硬度・生体反応計測
10	その他 力学的機器	CPM・メドマー・振動刺激療法, 触診, 生体反応計測
11	徒手的理学療法基礎論(井上)	筋生理, 筋繊維, 筋腱複合体, 受動的トルク, 生体反応
12	ストレッチング(井上)	静的・動的ストレッチング, 筋障害予防, 生体反応計測
13	電気刺激療法	低周波療法・TENS, 生体反応計測
14	電気診断	クロナキシー, H反射, 運動神経伝導速度
15	水中トレッドミル体験	全身浴, 水中トレッドミル体験, レポート課題発表
16	期末実技試験	15コマの復習・確認・総まとめ, レポート提出